

	評価項目	レベル			
		良く出来ている	まづまづ	なんとか	悪い
1	報告・論文を通してどのようなことを報告しようとしているのかが明確に分かる。	報告・論文でいおうとしていることが明確で、筋が通っている。	報告・論文でいおうとしていること全編で一貫している。	報告・論文でいいということが想像できる。	全体を通して、どのようなことをいいたいのかが不明確。
2	報告・論文の標準的な章立て・構成にしたがって、内容が整理されて書かれている。	目的、方法、結果、考察という章で、内容がよく整理されて書き分けられている。	目的、方法、結果、考察という章立てがあり、適切に書き分けられている。	目的、方法、結果、考察という章立てがあり、かき分けられている。	目的、方法、結果、考察という章立てがない。
3	報告・論文の目的を設定するために十分に先行研究が吟味されている。	たくさんの先行研究を読み込んでおり、それらを比較検討した上で、先行研究の吟味の結果で妥当に目的が設定されている。	先行研究が引用されており、研究目的との関連が述べられている。	先行研究に振れられているが、それがどのようにこの研究と関連するかが明確ではない。	先行研究について記載がない。
4	研究の目的と仮説が明解で実証的に検証可能になっている。	研究の目的を達成するために必要十分な仮説が立てられており、研究計画が目にかぶように明解である。	研究の目的も仮説も書かれており、研究計画との関連を留意に読み取ることができる。	研究の目的は明確だが、実証的に検証可能な仮説が明示されていない。あるいは仮説がかかかれているが、それがどのような目的を達成するためのものが明確ではない。	研究の目的がはっきりせず漠然としている。
5	仮説を検証し目的を果たすために必要な研究計画が立てられている。	研究計画がすべての仮説を正しく検証できるように立てられている。	研究計画が仮説の検証を可能にするように立てられている。	研究計画が目的の達成と合致はしていないが、関連している。	研究計画が目的の達成＝仮説の検証と全くかみあっていない。
6	研究方法が再現可能な程度に必要十分に記述されている。	研究方法の記載に基づけば、研究を再現できるだけでなく、方法論全体の見通しがよく、過不足なく書かれている。	研究方法の記載に基づけば、研究を再現できる。が記述が不十分だったり、冗長だったりする。	類推を加えれば、なんとか研究を再現できるかもしれない。	報告書・論文の記述では、研究を再現できない。
7	実験や調査などで得られた実証データの全容が分かるように必要十分な記述がなされている。	結果の記述における実証データの記載が報告書・論文全体の主張と関連しているだけでなく、データの全容が理解できる。	実証データの記載があり、なんとか考察や報告書・論文全体の主張との関係を理解できる。	実証データの記載があるが、考察や報告書・論文全体の主張との関係が理解できない。	結果に実証データについて記載がなく、報告書・論文には主張のみが書かれている。
8	実証データを科学的に評価するために、検定結果や効果量などの数値が十分記載されている。	考察や主張をサポートするのに必要十分な検定結果や効果量などの数値が記載されている。	結果に記載されている実証データについての統計的な検証や効果量などの指標が考察に結びついている。	結果に実証データについての統計的な検証や効果量などの指標が記載されている。	結果に実証データについての統計的な検証がない、効果量などの指標が記載されていない。
9	図表がよく整備され、報告・論文内での扱いが適切になされている。	図表が正しく記載され、文中の扱いも適切で、論文の理解を助け、論旨を主張するのに効果的である。	図表の記載はしかるべき形式に従っているが、効果的ではない。	図表が使われており、理解の助けにはなるが、記載の仕方が不十分。	図表がない。
10	考察においては、実証データに基づいた議論がなされて、研究の目的が達成されたことが分かる記述になっている。	実証データにもとづいて、研究目的で立てた仮説を検証しており、検証結果をもとに妥当な考察を展開して、論文全体で筋の通るメッセージを構成している。	実証データにもとづく考察がなされており、無理があるが研究の目的を達成しようとする記述になっている。	実証データにもとづく考察をこころみているが、データの解釈に無理があったり、研究の目的が達成されたのか関係が分からない。	考察がなされずに結果で記載がおわっていたり、結果と関係なく、いきなり結論やまとめになっている。
11	報告・論文の新規性・有用性が明確に記述されている。	新規性・有用性についての記載と理由や根拠が明確で説得力があり、論文の価値を高めている。	新規性・有用性について、理由と根拠を付して記載しているが、説得力に欠ける。	新規性・有用性があるものと書かれているものの、どのように新規なのか、有用なのかが不明確。	新規性・有用性についての言及がない。
12	先行研究の引用が指定の方法で正しくなされ、文献リストが所定の形式できちんと整備されている。	引用や文献リストがととのっており、修正の必要がない。	引用や文献リストが形式的に許容できる範囲にととのっているが、まだ完全とは言えず、修正を要する。	論文に引用があり、引用文献リストがあるものの、記載の形式や情報が欠けていたり、不備があり、不適切な程度である。	論文に引用がなかったり、引用文献リストがない。